

令和3年度 金沢大学附属中学校 自己評価表

学校教育目標 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学び創造する生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒				
本校の経営方針 (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自主性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。				
評価項目	目 標	具 体 的 取 組	評価	次年度への主な課題
教 務	1. 総合的な学習の時間の系統性を重視し、より円滑に実施する。 2. 年間行事のより効率的な運用をはかり、行事の精選を行う。 3. 新学習指導要領に対応した教育課程とその学習にともなう評価を円滑に実施する。	・E S Dの視点で構築した総合的な学習の時間の内容を精選し、系統立てて実施する。	B	・「創造デザイン科」の在り方を含め、総合的な学習の時間の内容・実施を検討する。 ・「創造デザイン科」を含めた各教科の評価について、妥当性・客観性を重視して検討する。
		・学校行事の年間計画をより効率よく運用する。	A	
		・新学習指導要領に対応した教育課程とその学習にともなう評価を円滑に実施する。	B	
生徒指導	1. たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・あらゆる場面で挨拶ができるよう指導する。	B	・各学年の総務委員が中心となって取組を行うことで、生徒主体で時間を守る意識付けができた。 ・挨拶、場面にふさわしい言動については、問題意識を生徒と共有し、具体的な活動を行う。
		・時間を守り、行動することができるよう指導する。	A	
		・心豊かで思いやりがある言動、場面にふさわしい言動ができるように指導する。	B	
教育実習	1. 実習の諸活動を滞りなく行い、学生に実践的な指導力を育成する。 2. 学生に教育者としての使命感と社会人としての責任感をもてるようにする。 3. 教職大学院生の活動に関して連絡を密に取り、院生の研究活動を行いやすいようにする。	・学生が教材研究等に集中できるように、事務連絡等の簡便化を行う。学生の授業の予定は全体で共有し、相互参観が行いやすい環境を整える。	A	・コロナ禍でメールの利便性があつた。一方で、実習期間等によっては労力がかかる。 ・学生、院生、本校教員が、相互に授業参観しやすくなるような環境作りがさらに必要である。 ・下校時間は、来年度も19時を厳守することが望ましい。
		・アンケートの活用やワークショップ等で、本校教員、教職大学院生、先輩学生、学生同士が意見交流できるようにする。生徒に対する適切な言動と時間・期限等を守ることができるように指導する。	B	
		・大学院生への連絡の簡便化を行い、学校全体の予定や学生の動きを共有する。研究や授業検討等の内容の理解・共有を図り、支援・協力する。	A	
研 究	1. 「創造デザイン科」のカリキュラム開発と実践を行う。 2. 「創造デザイン科」の教育効果を検証するために、レディネス評価を実施する。 3. STEAMプロジェクトをつくるための有効な手立てを検証する。	・「創造デザイン科」の第1学年～第3学年のカリキュラムを開発し、実践を行う。	B	・本年度検討した「STEAMプロジェクトをつくるための有効な手立て」を本校で実践するとともに、「創造デザイン科」のカリキュラムをより良いものにするために、検討を行っていく。
		・「創造デザイン科」の教育効果を検証するために、レディネス評価を実施する。	A	
		・STEAMプロジェクトをつくるための有効な手立てを検証する。	B	

情報教育	1. 情報社会に参画する態度を育成する。 2. 情報活用実践力を育成する。 3. 情報教育環境を整備する。	・情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会に参画しようとする態度を育成する。	B	・情報端末の使用については教員間でも差が生まれている。より適切な研修を検討・実行すべきである。 ・一人一台端末によって生徒たちの情報モラルの不足が浮き彫りとなった。指導を学年ごとに行うことができたが、育成のための活動の検討と精選が必要である。
		・技術・家庭科（技術分野）と各教科等が相互に関連を図り、情報を適切に収集、判断、整理、活用、発信するために必要な能力が身に付くよう指導する。	A	
		・ICT環境を整備し、タブレット端末の活用体制を確立する。	B	
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。 2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。 3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・よりよい安全点検をめざし、生徒・教員が連携して取り組む。	A	・よりよい学習環境の整備とより実践的な避難訓練の計画を実施していく。 ・整美委員会や公安委員会とのさらなる連携を図り、清掃や学習環境の整備に対する自発的な取組を促していく必要がある。
		・生徒の自発的な清掃をめざして、指導の工夫・改善をする。	B	
		・学習環境の整備について、自発的に取り組める生徒の育成を目指し、指導する。	B	
第1学年	1. 学習に対する前向きな取り組み姿勢、基礎的学力を育成する。 2. 相手の気持ちや周囲の状況を考え、行動できる生徒を育成する。 3. 目標に向け、あきらめず、粘り強く取り組む姿勢の育成。	・生徒の関心、意欲を引き出す学習指導の工夫を行う。また、課題をきちんとこなすなど、学習のリズムが確立できるよう支援する。	B	・多くの生徒が前向きな集団の良さを大切にし、生徒同士および生徒と教員間の信頼関係をさらに深めるための日常的な指導や働きかけを積み重ねていく。
		・日常生活や行事などの場面で、人の気持ちを考えて行動できるよう、支援する。	A	
		・日々の生活や学校行事における目標を明確にし、それに向けて粘り強く取り組めるよう、働きかけを行う。	A	
第2学年	1. 視野を広げ、自ら学びに向かうことのできる力を育む。 2. 自分と他者との違いに気付き、それぞれの良さや個性を認める姿勢を育む。 3. 自己を見つめ、心身ともにたくましい生徒を育成する。	・授業を中心とした様々な学びの場面で、生徒自らが学びに向かい、視野を広げ、考えることのできるような指導の工夫を行う。	B	・生徒が自ら学びに向かうことができるよう、教科指導のさらなる工夫を凝らす。また、日常的な声かけも積極的に行い、細やかな指導と支援を行っていきたい。
		・学校生活全般を通して、一人ひとりの良さや個性に気付かせ、認めていけるよう支援する。	A	
		・日常生活の様々な場面で、生徒が自分自身を見つめ、鍛え、成長していけるよう支援する。	A	
第3学年	1. 互いに認め合い、思いやりのある姿勢を育む。 2. ルールやマナーを意識し、責任ある行動がとれる生徒を育む。 3. 進路目標の実現に向けて、粘り強く取り組む姿勢を育む。	・互いの良さに目を向けさせ、共感的な人間関係を築けるよう支援する。	B	
		・規範意識を醸成させ、学校生活におけるルールやマナーを守りながら、自分で考えて、実行し、やり遂げることができるよう支援する。	B	
		・互いに高め合う雰囲気を作るとともに、進路目標の実現に向けて最後まで努力できるよう支援する。	A	